

# 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	名古屋大学	整理番号	G02
プログラム名称	PhD プロフェッショナル登龍門		
プログラム責任者	前島 正義	プログラム コーディネーター	杉山 直
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画を着実に実施しており、所要の体制整備等が確実に行われている。</li> <li>・「海外研修の現地フィールドワークにおいて、現地学生から一定の寄与を引き出すための工夫」、「3ヶ月以上の長期留学を希望する学生への配慮」、「プログラムにグローバル化や国際化の視点が不足という学生アンケート調査における指摘」などの中間評価の指摘項目に対していずれも真摯に対応している。</li> <li>・学内メンターや指導教員間で意識のばらつきが見受けられていたが、これに対してもヤングメンター担当特任教員の採用、説明会や面談の設定など多くの努力が払われ是正されている。</li> <li>・理工系の学生が少ないという指摘に対しても、募集時の周知先を研究科から専攻単位に変更するなど工夫があり、平成28年10月から参加予定の第4期生では増加している。</li> <li>・学生から、他分野の人と話ができること、将来の社会貢献についてきちんと考えながら研究できることなど、本プログラムに肯定的意見が相次いでいた。</li> <li>・「海外に出るときの環境が整いすぎている。自分たちの考えたことも実施させてほしい」など、学生の意欲に満ちた自発的な発言が目立つことから、リーダー養成の成果が見受けられる。学生の意欲的な活動例としては、全国博士課程教育リーディングプログラム合同女子会も本プログラムの学生が中心となって開催している。</li> <li>・ノースカロライナでの研修は学生にとって非常に有意であることから、特任教員がスキルを吸収し、大学独自で実施できるように計画するなど支援期間終了後も見据えた取組がなされている。</li> </ul> <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英国の大学等のキャリア支援のための非営利組織である Vitae を参考に広島大学、筑波大学等と共に情報交換しながら、独自にスポーク（専門性を活用する能力）の評価を適切に行う評価法を開発している。この評価方法はオールラウンド型プログラムにおいて身につけさせる能力を評価する方法として適していると思われるので、他大学でも利用できるくらいに磨き上げていただきたい。</li> <li>・学生からは、懸命にやっているからこそ次のような要望がある。             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 海外で専門研究をしており場所的拘束があるため、スカイプ等でもプログラム活動等に参加できるようにしてほしい。</li> <li>2) スキル向上のため、また、連携しあうためにも学生同士の発表会を開催してほしい。</li> <li>3) 海外研修中に1日でも自分達で研修内容を企画・実施する自由日を設けてほしい。</li> <li>4) トップリーダーのセミナーについて、もう少し若手ベンチャーなど自分達と近い年齢の人と話したい。</li> <li>5) 企画を提案した場合には予算を付けてほしい。</li> </ol> </li> <li>・学生の間には、自専攻の先生の理解が足りず、本プログラムとの間で板挟みになって</li> </ul>			

いるとの意見もある。学内メンターや指導教員の意識のばらつきが見受けられることについては是正されているものの、更なる改善に向けての取組が必要である。

- 理工系の学生が少ないという課題は第4期生では改善したが、本プログラムでは修士課程1年に課されるカリキュラムが多く、博士課程に進学したい学生にとっては同時期に研究に専念したいという意向もあり、本プログラムへの参加を躊躇するケースが見られるとのことである。学生の負担を改善することで学生の更なる獲得につながり、多様な分野の学生を集め得る可能性もあるのではないか。
- プログラムの成果は、長期的に見て評価すべき側面もある。そのためにもしっかりと修了後のネットワークを作っていただきたい。